

# 寫眞週報

編輯部情報閣内  
ンセ+・號四卅第・日五月十

昭和十三年二月十二日 第三版 郵便部認可 昭和十三年十月五日發行 (毎週一、四、六、日發行) 第卅四號



若きドイツ



大日本聯合青年團第十四回大会は、九月二十六日明治神宮外苑の日本青年館で舉行され、鉄後の第一號を授かるべき新統領が宣言された。

この日殿下には事變下に於けるわが青年の重大使命を思召され、全國三百萬青年から選ばれた代表一千名、及び幹部、役員に對し有難き御言葉を賜り、一同はいよ／＼感激、鉄後青年として誠私奉公を誓つた。



踏む大地  
漲る力

青年徒步旅行

省道鐵





## 女子青年 指導者訓練



▶ 朝、ボウリングの森に、新興ドイツの太陽は上る。百萬のドイツ女子青年、団員の中から選ばれた指導者、三月の訓練の一日を、民族指導の指針に、輝く不屈のナチス魂。

富貴協会

百萬の団員を有するドイツ女子青年團の女子指導者をボウリングで養成してゐるが、ナチスの女子教育の特徴は、その生活が社会的であると共に、家庭のよき主婦であり強き第二のドイツ民族を育てるよき母であることを強調してゐる點にある。ドイツ女子青年團員の年齢がヒットラー・ユーゲントの十八歳と比較して三年多

い二十一歳までとなつてゐるのは、そのやうな目的からである。此處で三月の訓練を受けたドイツ女子青年團員は各地方の指導者となつて新興ドイツ建設に、その若々しい力を揮つてゐるのだ。強く、美しく、革新期にある大和撫子も彼女達に学ぶところが多い。

組織的訓練は、三月の生活の隅々までゆきわたつてゐる。皆の手でお互ひの生活を知る名簿は編まれてゆく。政治、経済、文化あらゆる話題が、ドイツ國家社會主義の指導原理に依つて批判されその方向に導かれてゆく。(上)

すうりと進んだ、ドイツの近代女性。その肉體ははちきれんやうな青春の輝きをまといへてゐる。強き民族を生む強き肉體はあらゆるスポーツに依つて鍛へられるのだ。ドイツのスポーツ政策は、大代のドイツを生む女性の健康に、十二分の考慮をはかつてゐる。

# 若きドイツ

一九三三年、ヒットラー總統の下にドイツは第三帝國となるや、ヒットラーはその理想とする國家を創造するためには、十年二十年を必要とする、そのためには幼稚時代から國家觀念を注ぎ込まねばと、若き苗木や若木の育成を始めた。

それまで各地に「渡り鳥」と呼ばれて、離散してゐた青少年團は、こゝにヒットラー・ユーゲントとして統合統一され、眞のドイツ建設の重大任務を負ふことになった。

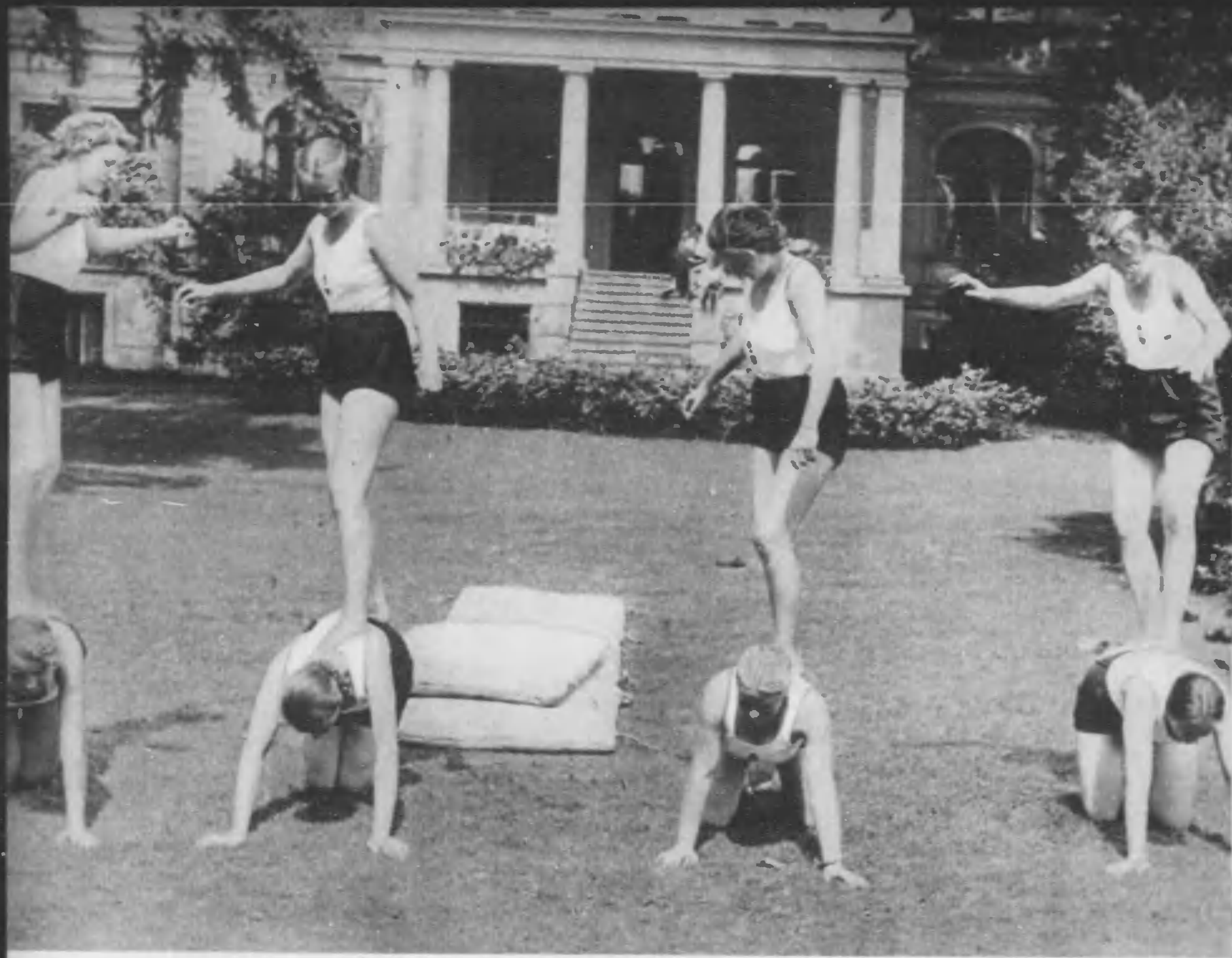
次で一九三六年末にはヒットラー・ユーゲント法が公布され、ドイツ男女青少年はすべてヒットラー・ユーゲントに参加するべく規定された。来るべき時代のドイツの姿を暗示するこのヒットラー・ユーゲントは今日すでに團員七百五十萬人に達し、ドイツ少年團(十歳—十四歳)ドイツ少女團(十歳—十四歳)ヒットラー青年團(十五歳—十八歳)ドイツ女子青年團(十五歳—二十一歳)の四つの組織から構成されてゐる。そしてヒットラー・ユーゲントは學校とは全然別の組織で、別箇の機關であるから、その指導者も別になつてゐる。しかも「青年は青年によつてのみ指導されねばならぬ」とのヒットラーの原則は、年々づか三十歳のベルドルフ・フォン・シーラハ團長によつて見ごと實現されてゐる。

學校の授業がおほつた毎週の土曜日は、固定青年團日とされ、旅行、グライダーやオートバイ等のスポーツ、自動車操縦、射撃、天幕生活、團體遠足、教練等、體位向上をめざす團體生活にあてられ、この生活によつて訓練、服従、義務、犠牲心が自然に獲得されるやうに仕向けられてゐる。

また彼らのためには全國到處に多數の宿所が用意され、暑中休暇の三、四ヶ月も森と湖沼の大自然の中に戶外生活を樂するやうになつてゐる。褐色の制服に身をかためた少年たちはハーケン・クロイツの腕章を左腕に、團旗をかざし、太鼓の音とともに勇壯な歌を合唱しながら、町から町へ、森から森へと行進をつづける彼等の顔には熱烈な愛國心が躍動してゐる。なほ、これ等ヒットラー青年團員の八割が職業に従事してゐることも注目される。

今、訪日ヒットラー・ユーゲントの來朝に際し、モーター・ユーゲント、海洋ユーゲント、女子青年團等の近所の寫眞の中からその激刺たる活動ぶりをこゝに紹介しよう。





↑  
 後の学生で朝の体操。その  
 骨格を鍛へ、筋肉をきたへる  
 力と美の高等體操だ。ドイツ  
 に新しき世紀の女性はいかに  
 育つ。

↓  
 多くの夜長も退屈しないやうに、皆手仕事  
 を勉強する。婦人は家庭に基礎を置き、  
 といふナチ教育の一面だ。今習ひ覚えたる皮  
 細工は、故郷へのよき土産として持ち歸ら  
 れ、各地方のドイツ少女團員達に教へられ  
 る。



富貴協會

午前中の日課が終つた  
 ひととき。歌を豊かに持  
 つたドイツの各地方から集  
 る團員達は、わが故郷  
 の歌謡をうたひ合ふ。清  
 らかな合唱につれて美し  
 い友情が皆の心に融けこ  
 んでゆくのだ。

↑  
 プールの水を蹴つて、  
 若駒のごとく泳ぐ水泳も  
 日課の一つだ。彼女達は  
 陸に鍛へ、尚水に鍛へ  
 る。逞しく成長するこの  
 肉體には、ドイツ女性の  
 憧れ、ヒットラー突撃隊  
 の青年隊員に倣ふ名譽が  
 約束されてゆく。







會協員宮



運糧實習—左大廻り、右小廻り  
(日本ではこの反対だが)の規則に従  
つて、操縦の練習コースをユーゲント  
の車はぐる／＼とまわる。

炊事も當番をきめて代るがける。森  
は山の様な食糧にこたへて炊事當番  
の食用意欲、さも食つてよろしい。



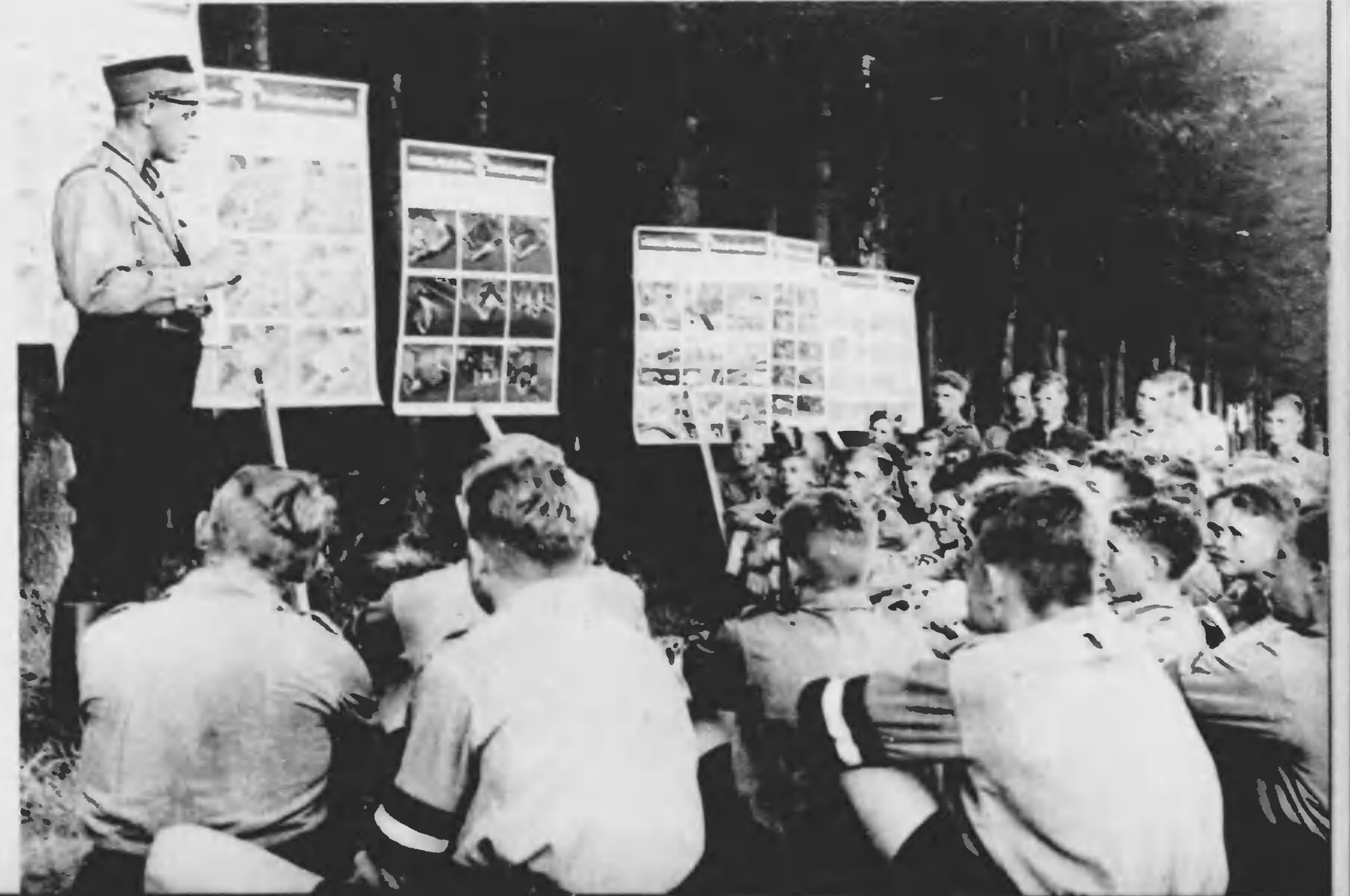
## モーター訓練



⇒ 傳令訓練—指導者を先頭に、  
エンジンの爆音も快くボウツダム  
廣場の野營地からノルデールの野  
に向ふ青少年。

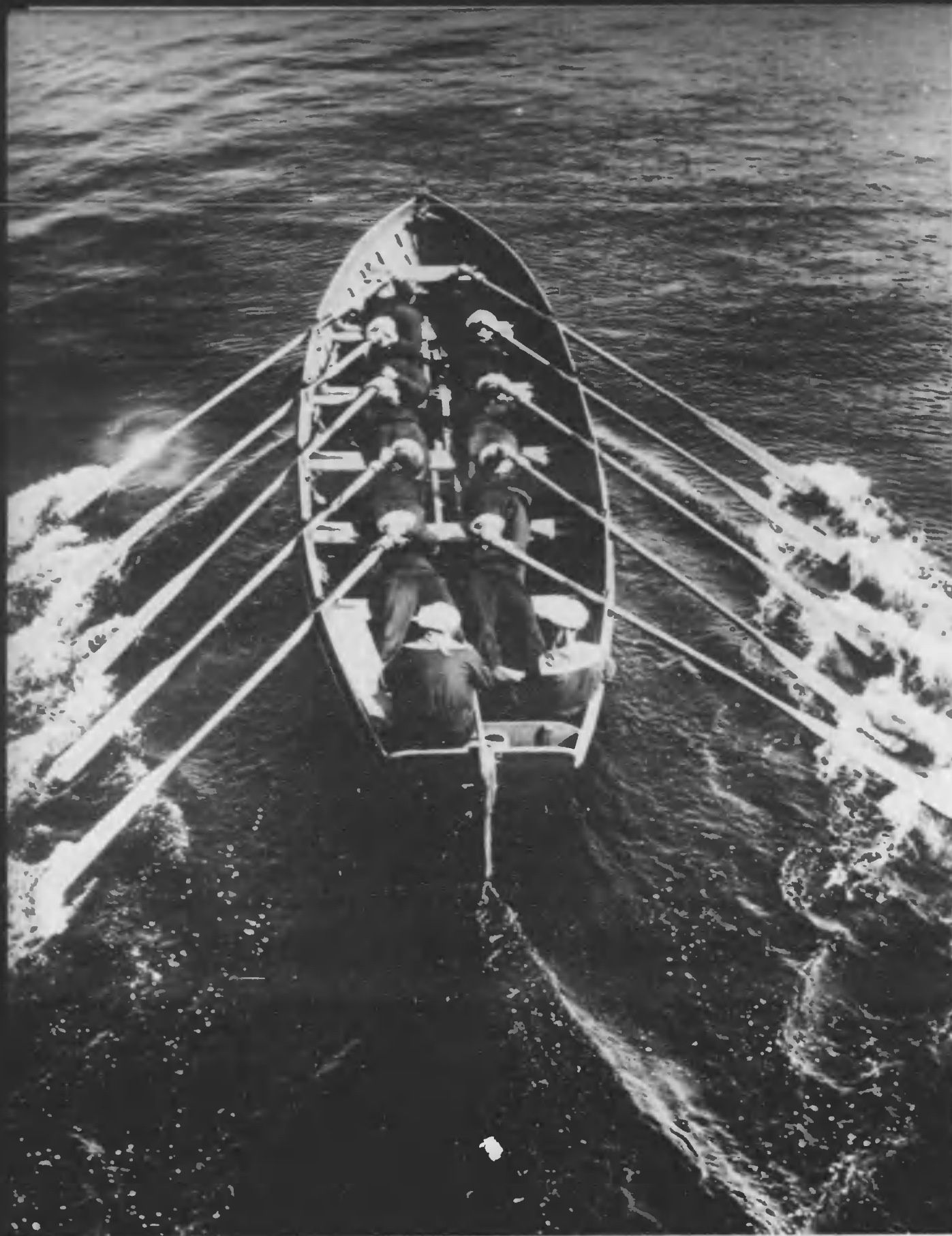
ヒットラー・ユーゲント  
モーター訓練所。これ  
も健康な肉體、科學的な頭  
腦の訓練、及び國防第二陣  
養成のためにドイツが誇る  
設備の一つである。  
場所にはボウツダムの廣域、  
先鋒の指導の下に數週間に  
わたる合宿訓練で、エンジ  
ンの基礎知識から操縦法、  
交通規則に至るまで規律正  
しい生活のうちに習得する。  
合宿は野外の天幕生活、  
健康と規律が第一のモット  
ー。はちきれぬ若さが、エ  
ンジンの爆音とともにボウ  
ツダムの野を駆け下る。

⇒ 交通規則に對する明瞭な知識を持つこ  
とは文明人の誇りであり、殊に、自動車  
自動自転車の操縦者に取つては義務でな  
ければならない。



⇒ インダクションコイルはシリンドーを爆  
發させて、動力をうるための高壓電流を作  
るコイルだ。解つたか！——模範を圖ん  
で指導者の説明に懸命の耳をかたむける。





## 練訓洋海

ドイツの海、北海の朝風に赤銅色に染まった頬を輝かし、海の第二陣を承つて沿刻と訓練をつとめる海軍青年隊、これは海のヒットラー・ユーゲンツである。起床から就寝まで、すべてドイツ精神が作つた正しい規律に従つて、運動をやり、學識をうけ、カッターを漕ぐ。都會にあつて新鮮な外氣に不足し勝ちだつた青年の肉體も、碎ける怒濤に力強く躍動し、明けの海の生命線を守るべき若い魂は躍る朝日に輝きわたる。

カッター出港。腕に渾身の力をこめてカッターは北海の両面を矢のやうに走る。若さをオールのうちに込んで。

暑中休暇をはりに近い、オールのうちに入れて、今日もカッターの練習だ。

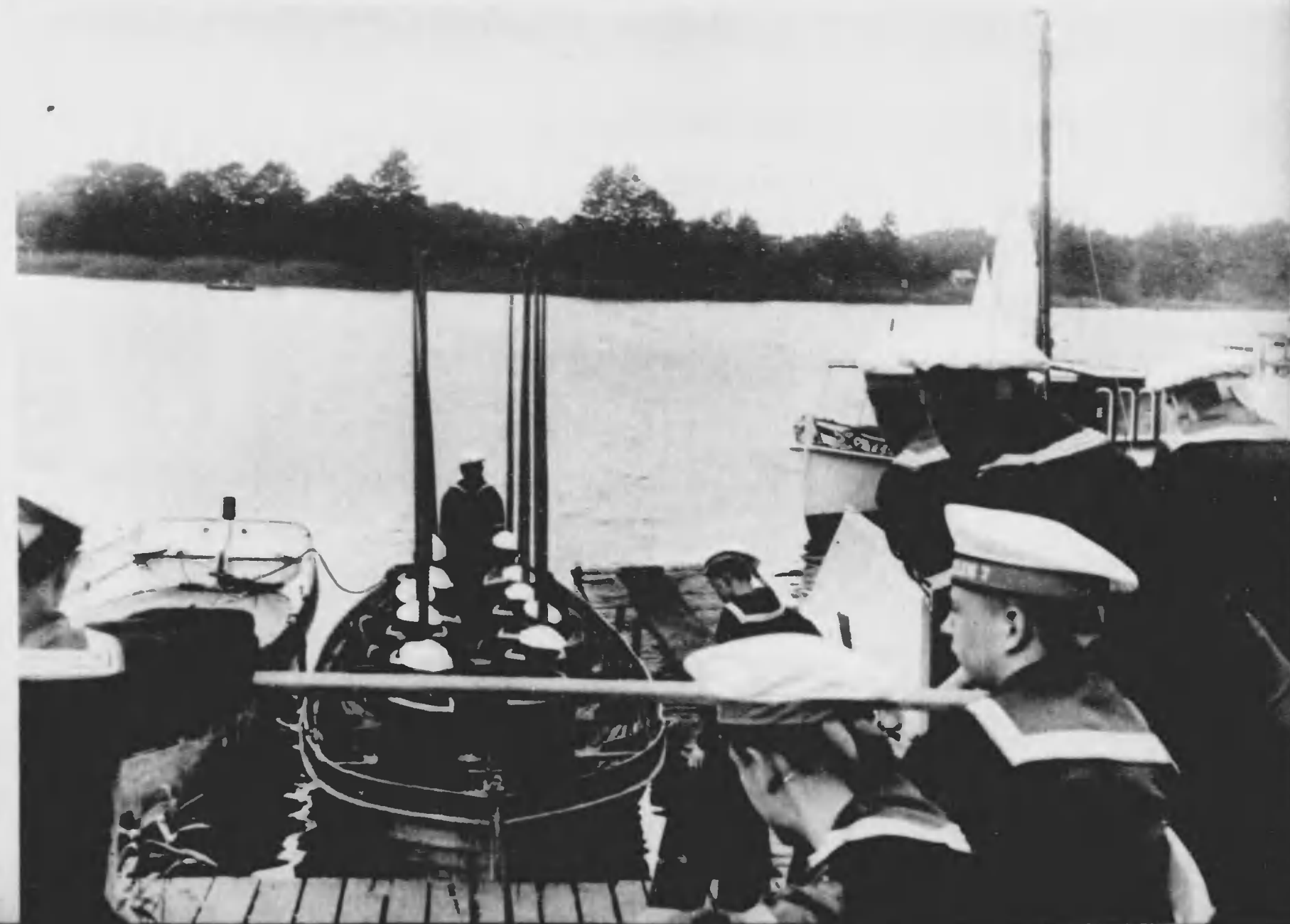
「カッター手人方始め！」ボートハウスの傍に引き上げられたカッターは若人の手で動かされ、徐り上げられる。薄きたない船は船乗りの恥た。

電報協會



⇒ 國旗掲揚式。午前八時、ハーケンクロイツの染め抜かれた國旗は若人の心を奪つて朝風に翻とひるがへる。

⇒ 船乗りは繩の取扱ひが大切だ。マスト登りにも、カッターの引上げにも、繩は大事な商賣道具。結んだりほどいたり、切つたりつないだり、繩の操縦第一課。











街の時計。毎朝五時四十分、西淀川區大和田町は同町会少年部の練習場がラヂオの音に響く。夜明けの街を毎朝正確に廻るこの時計として大人の朝を許さない。

子供も町会員、お父さんやお母さんのお手傳ひして街の清掃に。東淀川區天神橋筋七丁目町会の子供の清掃隊。



子供町会はどこまでも子供の手でと立看板もボスターも上手に書いた。



僅差だけの手でこしらへたボスターや立看板は、また僕達の所ではこんで町内に立てた。うれしい結成式を早く皆に知らせよう。

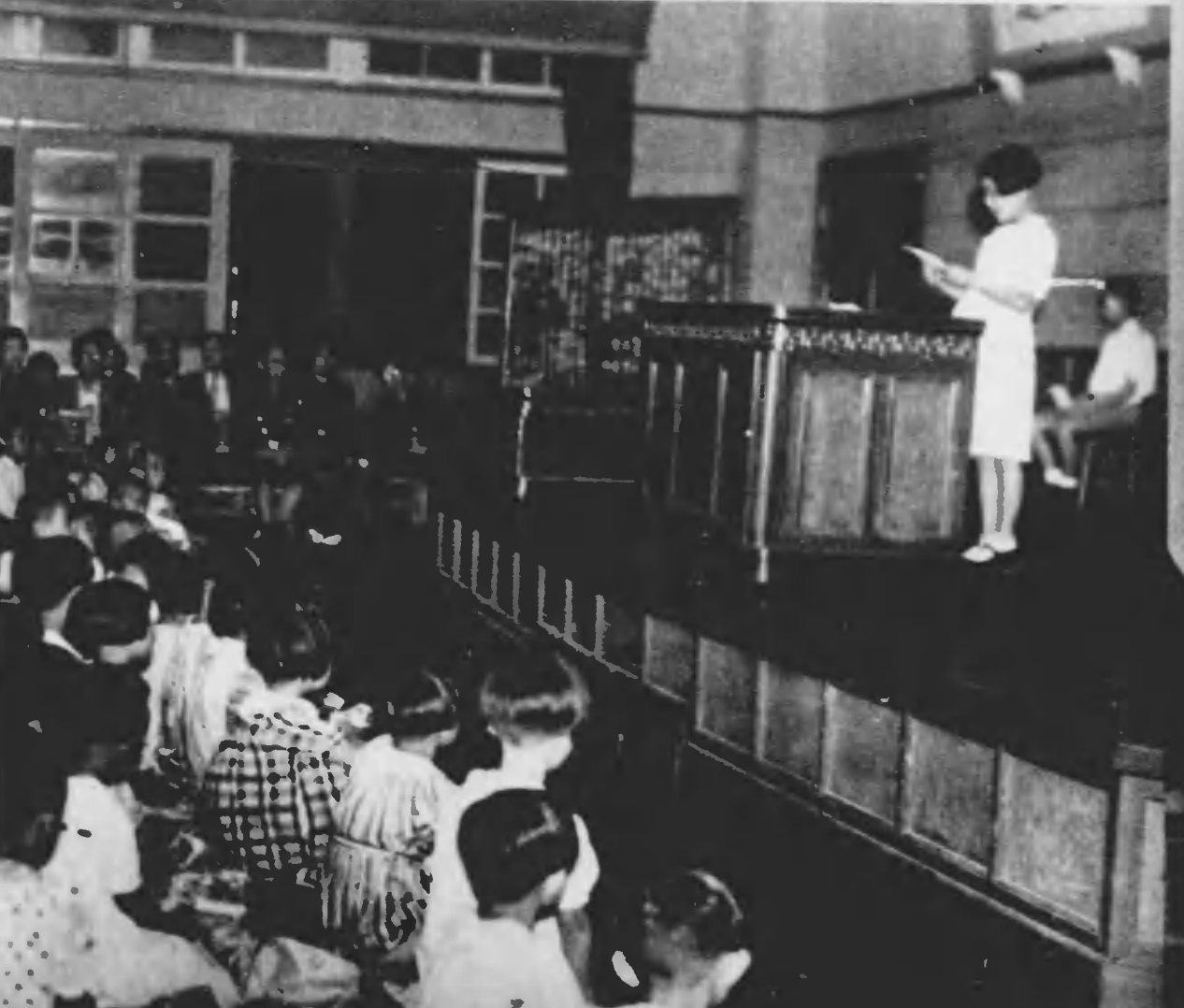
子供町会結成式の當夜は、学校の先生も大人の町会役員も皆来賓席に招待され、少しも大人の手をかりずに兒童ばかりで開会のことば、経過報告、子供町会の宣言、父母代表へのお禮の言葉など順序よく立派に司會できた。

撮影 大阪市



僕等で作る子供町会結成式於長池校  
久留島武彦先生の童話  
大阪童話教育研究会の先生童話  
山坂西二三町子供町会  
皆せん来一下

事變下の今日、僕達も戦後の町の勇士となつて、大人に負けずに、僕達、私達の町を愛し守らうと大阪市住吉區山坂西之町二三丁目「子供町会」が生れた。會員は小学一年生から六年生までの男女兒で、一日一善を標榜として、自治のお手習、國民精神總動員は子供の世界にも力強い團結となつてあらはれた。







# (4) 譜画謡歌民國

## し 流 筏

定規音編法本目

Moderato 元氣よく

門時三千男俊則  
宮原 節 作曲

Musical notation for the first system, including treble and bass staves with notes and rests.

Musical notation for the second system, including treble and bass staves with notes and rests.

一  
サアサ  
山は 伐り出せ 深山の寶  
伐つて 鹿女林 取の林  
流せ 紡つて 筏に組んで  
流れの とまるほど。

二  
サアサ  
川は 急流 流れろ 雪解の水だ  
迂る 筏に 身を 躍らせ  
いのちの 胸を だめし。

三  
サアサ  
狂ふ奔流 自慢の 三間竿だ  
岩を 舐めて 渦巻く 怒濤  
下る 手練の 離れわざ。

四  
サアサ  
此處の 乗り切れ 生命をかけて  
見事男だ 男は度胸 越えりや  
男度胸の 若盛り。





附賞點百

はれめ菓を箱空  
るなに子菓お

！子菓おのかるすに子い強

ルメラヤキ治明

社會式株菓製治明

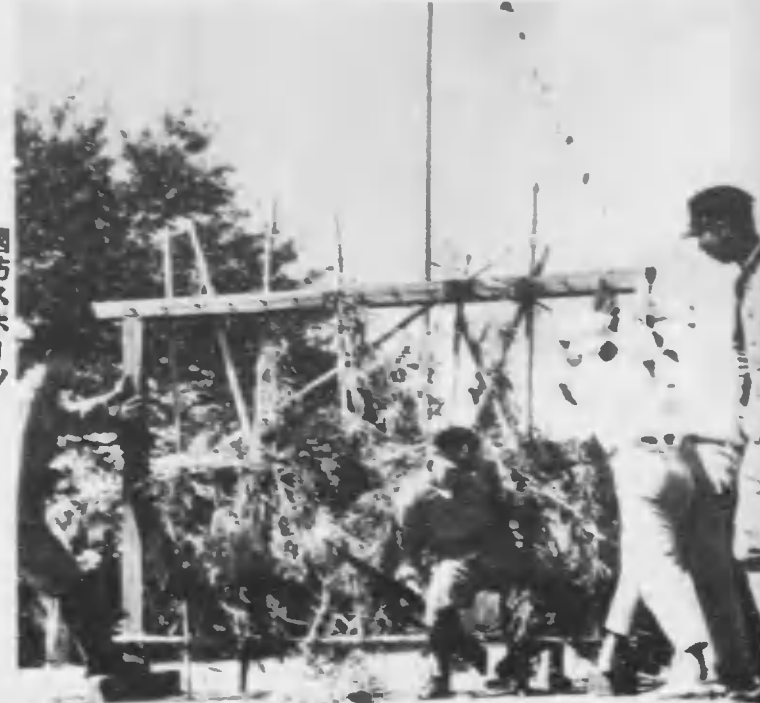
東日主編  
一國愛護社一編  
東京・野崎眞氏作

カ  
メ  
ラ  
の  
読  
者  
の

少年行進曲  
東京市品川區 山 貫 武  
私は聖路イウの兄さんたちを迎へ、あ  
の規律正しい行進曲を見たとき、あ  
んなに思ひました。そして日曜日に竹と  
ハイキングしました。もう秋なのに汗みど  
ろになり、胸も締めつけられましたが、あ  
ましの目的に皆元気に到着しました。  
新しき農村女性  
岡山縣津山市 杉 本 哲 朗  
農村はいま、暑くて資源確保に邁進して  
ゐる。手を携へてゐる秋ではない。肥料不  
足も自給で補はねばならぬ。と自覚した  
岡山縣津山市の女性たちは、紫雲一斉行進  
曲を設定、モンベもかひなく新秋の  
冷風に頬をほてらし、晩間を衝いて自らな  
る隊列を高らかにひらくのであつた。

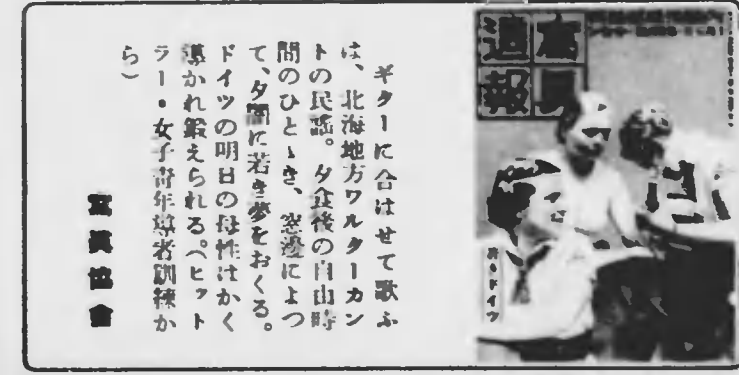


国防スポーツ  
千葉縣八千代市 深田 登美雄  
千葉縣八千代市立西郷中學校は長期建設にお  
ける本校下等部少年の地位向上に意を注ぎ  
今秋の運動会には「国防スポーツ」の旗を注  
新種目を創つた。クリケットをとりこ  
力を乗りこへて、逞しき若人たちは躍  
進する。



祈るこの手  
長野縣長野市 清水 秀二  
秋の長野に秋意で忙し。目まぐるし  
くたち働く親たちの手を離れ、兒らは一  
日を正見所で過ごす。楽しい日課に入る  
前、遠く戦地に向ひ兵隊さんたちよ安か  
めると合はす、いたいけな手に幼い心をこ  
める。

寫眞週報は本年二月創刊以  
米、國策のグラフとしての使  
命を遂げるために努力して  
米でしたが、今般パルパ爾  
の見地から各種の紙の使用制  
限が課せられるに至りまし  
たので、寫眞週報もこの困難  
を率先實踐して本誌から四  
頁の減員を行ふことになりま  
した。しかしながら内容は益  
益充実してこれを補ふつもり  
であります。右御読承願ひま  
す。



寫眞週報 (禁轉載)  
昭和十三年十月五日印刷發行  
發行所 内閣情報部  
東京市品川區品川  
内閣情報部大臣官舎  
印刷所 大日本印刷株式會社  
東京市品川區品川  
加賀町一ノ二番地

所 込 申	價 定
寫眞週報配送部 東京市品川區品川二一〇番地 電話四六八〇番	一 部 十 錢 一 年 分 (前) 四 圓 八 十 錢 (外 國 郵 費 別 算) (外 國 郵 費 別 算) (外 國 郵 費 別 算)
全國各地官報販賣所 東都書籍株式會社 最寄書店・購買店 各地新聞販賣所 寫眞材料店	一 年 分 未 滿 配 送 部 希 望 の 方 は 一 部 十 錢 の 割 合 を 以 て 前 金 を 送 へ 御 申 込 み 下 さ い





藥 用

健康と衛生のために……

